されている。

2018年の北海道胆振東部地震では、DMATから引き継ぐ形でJMATや日赤救護班を中心とした救護班が活動した（オーバーラップ有）。北海道庁に「北海道保健医療福祉調整本部」が設置され、厚真町には苫小牧保健所が地域レベルのコーディネート本部として「東胆振東部３町医療救護保健調整本部」を設置し（９月11日～20日）、救護班の指揮調整等が実施された。１日当たりの最大活動チーム数は34（９月11日）で、延べ272チームが活動した。比較的早く避難所の設置が収束し医療機関は復旧したものの、救護所の設置と巡回診療が発災後２週間まで残った。疾患としては、災害ストレス関連、創傷、高血圧が多く、これにさまざまな救護班が協働して対応した。深部静脈血栓症の発症予防として一般救護班によりハイリスク患者のスクリーニングが実施され、日本静脈学会災害対策チームによる超音波検査につながれた。精神科医・児童精神科医を含めた日赤こころのケアチーム、道こころのケアチームが連携して巡回診療にあたった。このような救護班間の連携が可能となったのは、本部が設置され、救護班登録が整理されて情報共有が徹底された成果と考えられる。

６．まとめ

災害医療コーディネートの本質は、個々の支援活動という点を、地域全体の医療提供体制という面へ統合することである。派遣される救護班は必ず都道府県保健医療福祉調整本部に登録し、地域本部の指揮下に入り、方針に従って活動する必要がある。本部で調整を担う災害医療コーディネーターには、客観的な情報分析と適切な配置判断が求められる。「個の診療」から「地域のマネジメント」へ、この視点により防ぎ得る災害死を確実に防ぐことが可能となる。

お知らせ

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について

◇救急医療部◇

当会ホームページでは急病・急な症状時の対応を紹介する「応急手当WEB」、救急医療機関の適切な利用について理解を深めてもらう「救急医療啓発パンフレット」を登載しております。

これらの情報をより一層周知することにご協力いただけます医療機関におかれましては、自院ホームページに下記掲載URLへのリンクをお願いいたします。

なお、リンク掲載後のご連絡は不要ですが、今後の連携強化のため、リンクのご一報をいただければ幸いです。

●応急手当WEB
http://www.hokkaido.med.or.jp/firstaid/

●救急医療啓発パンフレット
http://www.hokkaido.med.or.jp/hokkaido/ambulance.html

連絡先：北海道医師会事業第三課
TEL　011-231-1726　　FAX　011-210-4514　　E-mail　3ka@m.doui.jp